

# 吉川英治と市所蔵の文豪たち

～青梅市吉川英治記念館×文豪とアルケミスト～ PART III  
ギャラリーコラム

当館の担当課の学芸員に伺いました！

## ■ 今回の展示について教えてください。

今年もDMM GAMESより配信中のゲーム「文豪とアルケミスト」とのタイアップ展示なので、青梅市が所蔵し、「文豪とアルケミスト」に登場する文豪の作品を主に展示しました。

その他にも多くの作家の原稿を展示しており、自筆原稿が持つ魅力を見てほしいです。この人はこんな字を書くのか！といった生の原稿だからこそ見える楽しみもありますね。

また、「ゲームの世界と現実について」のコーナーでは、ぜひ実際の間人関係と、ゲーム内での違いにも注目してみてください！  
特に吉川英治が直木三十五について述べた箇所も紹介しています。

## ■ 本展示の、見どころを教えてください。

やはり、正面の展示コーナーですね。  
夏らしい題材が描かれた作品をぜひ見てほしいです。

【色紙】ほおずき 吉川英治 写  
夏の風物詩であるほおずきを描いた作品。  
作家が書と画で表現した様をご覧ください。



【掛軸】スズメのうた 中里介山 作 (羽村市郷土博物館所蔵)  
穂の収穫時に取り残された落ち穂を食べに来たスズメを描いた作品。畑に下げられた鳴子が、羽ばたいたスズメの羽で鳴り、自身で鳴らした音に驚くスズメを描いています。

落款には「百姓弥之助」の文字が見て取れます。  
晩年、中里介山（本名：弥之助）は農業に従事しますが、戦時下、吉川英治もまた、吉野村で百姓として勤しみました。

【掛軸】大菩薩峠 快童（米友）挿絵原画 石井鶴三 画 （羽村市郷土博物館所蔵）  
大菩薩峠に登場する宇治山田の米友（うじやまだのよねとも）を描いた作品。

【色紙】宮本武蔵 船島（巖流島）仕合 挿絵原画（下絵） 石井鶴三 画  
宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘を描いた下絵。

中里介山と吉川英治は直接の交流はなかったと言われていますが、挿絵画家の石井鶴三を介しての繋がりが面白いですね。

この展示では、『宮本武蔵』を描いた石井鶴三作品と、『大菩薩峠』を描いた石井鶴三作品を並べています。  
こちらは羽村市郷土博物館のご協力をいただき、一同に会することができた光景です。

■本展示ならではのお話はありますか？

『大菩薩峠』は青梅の風土がなければ書けなかったと思います。  
介山の母と、青梅の郷土史で著名な清水利氏の母が仲が良かったのです。  
その関係もあり、介山は青梅という土地に愛着もあり、ゆかりがありました。

吉川英治も中里介山も、土に根差した生活を好みますが、“土に還る”という境地ではないかと思います。  
このことも青梅や羽村の自然や風土がそういった想いをさせるのかもしれませんがね。

今後も展示について、コラムを載せる予定ですので、お楽しみに！